

自治会	自治会名	富士見台						
	自治会 拠点住所	上田市上野1451-145						
	URL							
	拠点施設名 ※公民館、 自治会館など	富士見台自治会館						
	世帯数 該当世帯数に○印	50未満	100以下	250以下	500以下	750以下	1,000以下	1,000以上
			○					
自治会の紹介 位置や沿革、 成り立ち、 昔話など	<p>富士見台は、1975年(昭和50年)にJAが開発した住宅地で、真田正幸が籠って徳川軍に大打撃を与えたといわれる伊勢崎城跡がある虚空蔵山丘陵にあります。当時のこの地域の環境に由来して「グリーンビレッジ富士見台」と命名されました。その2年後の昭和52年(西暦1977年)に自治会を設立しました。自治会館の標高は東京スカイツリーとほぼ同じの637mです。八ヶ岳の裾野越しに約123キロメートル先の富士山頂が見えます。</p>							
								
組 織 個人名を含まない 組織図など	<p>23の隣組で構成。 協議会：自治会三役(自治会長、副自治会長、会計)、隣組組長 役員：協議会員、市の委嘱委員</p>							
主な行事	<p>1月：新年総会・親睦会、繭玉づくり・どんど焼き</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>4月：お花見会</p> 							

8月：七夕飾り、魚のつかみ捕り、夏まつり



9月：敬老会



11月：文化祭



12月：公園清掃と焼き芋大会、しめ縄作り、餅つき



比較的新しい自治会のため、伝統行事というものがありません。自治会の行事は「ここで生まれ育った子供たちに、故郷としての思い出を作ってもらおう」ということが原点です。

第一次
避難場所

施設名 : 自治会館
住所 : 上田市上野1451-145

その他自治会で指定された施設の施設名、住所

防犯・防災

管轄交番 : 上田警察署神科交番(によるパトロール)
管轄消防団 : 上田市消防団第十二分団(によるパトロール)
防災訓練 : 年2項目(避難訓練、消火訓練)の訓練を実施。
登校見守り : 「どんぐりの会」による小学校低学年の付き添い登校ボランティア活動。



安 全
安協のとりにくみなど

- ・道路の白線引き(4月)。
- ・交通安全旗および自主交通標示・標識の設置・管理。

環 境
資源回収情報など

- ・自治会員全員で、年2回の草刈りと側溝清掃。同時に小学生による町内のごみ拾い。
- ・「みどりの仲間」による公園・街路の花・樹木の管理。

- ・小学生による公園の落ち葉掃き。(12月)
- ・資源(PETボトル・空き缶・空きびん)および有害ごみ(蛍光灯・電池)・危険ごみ(スプレー缶・ライター)を出すのはフリータイム。

- ・機関紙「広報富士見台」(1回/月発行)による自治会情報の共有。
- ・福祉推進委員らが、高齢者を対象とした、ふれあいお茶会の福祉推進活動を一年に複数回実施。
- ・「どんぐりの会」による「つどいの広場」(交流会)、「レインボー富士見」(健康体操会)、小学生の見守り活動、高齢者・身体障がい者のお手伝い活動(生活支援事業)のボランティア活動。
- ・世代や男女を超えた月一度の交流会「コミュニケーションカフェ」(基本飲み物や食べ物は自前)で歓談。

上田・富士見台自治会 夜の「カフェ」

飲んで語って

地域の交流

上田市上野の富士見台自治会(約240世帯)は月に1度、夜の時間帯に自治会館を開放して、酒を酌み交わしながら住民同士の親睦を深める「夜のコミュニケーションカフェ」を開いている。自治会長の峯村秀男さん(71)の発案で、2年半ほど前から開催。1人暮らしの高齢者から働き盛りの若者まで、多いときには20人を超える住民が参加し、世代を超えた交流の場となっている。

つながり 高齢者も若者も

27日午後6時ごろ、自治会館に赤いちようちんがぶら下がった。「夜のコミュニケーションカフェ」の開店の合図だ。住民たちが三々五々集まってくる。飲み物つまみはそれぞれが持参



笑顔で乾杯し、酒を酌み交わす峯村さん(右から2人目)ら。テーブルにはそれぞれが持ち寄ったつまみと酒が並ぶ

する。中には手料理を持ってきて、みんなに振る舞う人も。乾杯から約3時間、間にわたって、ざくばらんに会話を楽しんだ。「店長」を務める武井勇さん(72)は「普段はあいさつを交わす程度の人とも、ここでは杯を交わせる。互いにあれやこれや話すことで心がクリアになっていく気がする」。

発案者の峯村さんは、7年ほど前に妻に先立たれてから、1人でテレビを見ながら晩酌する日々が続いた。自治会長になった3年前、役員に「1人暮らしの高齢者も多い。みんなで気楽に

酒を飲みながら話せる場をつくるのはどうか」と持ち掛けた。「それは面白い企画だ」と賛同を得て、その年の6月、初めて「夜のコミュニケーションカフェ」を開いた。原則毎月第4土曜日に開く。当初は男性がほとんどだったが、徐々に女性も増えてきた。テーブルに並ぶ料理の数も増え、峯村さんは「居酒屋並みに豪勢だ」と笑う。柄沢悦子さん(74)は「つながりを持つことで心が豊かになる」と話していた。峯村さんによると、富士見台自治会は新興住宅地で、多くが40年ほど前に引っ越してきた人たち。峯村さんは「新しく引っ越してきた人も快く受け入れる土壌がある。人とのつながりも生まれやすいのだ」とする。最近では、カフェそのものが「地域の支え合いにつながる」と、市内の他の自治会からも注目を集めている。見学を兼ねて、他の自治会長らが参加することもあるという。

その他

分館・育成会・消防・敬老会・AED設置場所など